

CEN/TC 256の活動概要と 国際標準化への取り組み



Cliff Cork

CEN/TC 256
(欧州標準化委員会/
鉄道分野専門委員会)
議長

CEN/TC 256は、1990年代初めに設立された車両および施設を対象とした欧州規格（電気・電子分野を除く）を作成する委員会です。ここでは、ISO/TC 269と密接な関係を持つ同委員会の最近の動向について、昨年議長に就任されたばかりのクリフ・コーク氏（英国）に寄稿をいただきましたので紹介いたします。

欧州標準化委員会（CEN）は、主に欧州の法制実施を支援する規格を作成するため、欧州33か国の各標準化機関から組織された団体です。

CEN/TC 256 鉄道分野専門委員会は、欧州全体の鉄道産業の支援を目的とする規格作成を所管する委員会です。CEN/TC 256は、とくにEUでの車両および施設を対象とした、都市交通を含む鉄道分野（電気および電子分野を除く）についての欧州規格の開発を担当します。上記委員会は、鉄道利用者、公営および民間鉄道輸送事業者（旅客および貨物）、インフラ所有者、製造業者およびメンテナンス業者、サービスプロバイダー（コンサルタント、金融業者など）、公共団体（国レベルおよびEU全体）、リース会社、規制機関、ならびに事業者団体から構成されています。大手の製造業者、インフラ所有者および事業者など60余りの組織が、CEN/TC 256の業務に関連しています。

1990年代初めに設立されたCEN/TC 256の最初の業務は、欧州共同体（EC）内の製品やサービスの公共調達での貿易障壁の除去を主な目的とした公共調

達指令（93/38/EEC）に関するものでした。マニフェスト（☞参照）M 024により、71の規格が作成されました。1990年代半ばには、欧州鉄道事業は、市場全体の自由化と民営化という大きな変化の影響を受けました。以下の目的を掲げるセクターの標準化のニーズには、上記の変化が考慮されています。

- ・商業的に制限される各国の鉄道会社の規格から、共通の欧州の技術開発フレームワーク計画へと移行する
- ・それぞれが独自の規格体系を有する多くの鉄道会社から、一連の規格についての合意をとりつける
- ・鉄道会社に対し、適切な形式の規則および規制を設ける
- ・各国の顧客へのカスタマイズを不要とし、費用対効果の高い製品やサービスを提供したいと望む生産者やサプライヤーを支援する
- ・「他の輸送手段」に比べて、「鉄道」の市場における位置付けを向上させる
- ・輸送システムとしての鉄道の環境面での利点を向上させる
- ・グローバル市場での欧州の競争力を促進させる

指令（最初は高速鉄道、のちに在来鉄道まで拡大された）により、CEN/TC 256の業務に最も顕著な影響を与えました。この指令は、欧州鉄道ネットワークの相互運用に関する重要な要求事項が網羅された、インターオペラビリティ技術仕様（TSI）の作成を求めるものです。CEN/TC 256には、上記指令の要求事項を支持するための規格開発の権限（M483）が付与されています。

各指令は、加盟国の法制度にとって代わり、上記TSIが法的に有効となりました。ENの一部はTSIで直接基準とされ、法的地位が確立され、ほかの（整合）規格により、TSIすなわち指令に対する適合性の推定が可能となります。

CENすなわちTC 256の適用範囲は、CENメンバー（現在33）、欧州自由貿易連合（EFTA）に加盟するスイス、ノルウェーなどの国が含まれるため、EUよりも広がります。CENには、ほかのさまざまな国家機関（カザフスタン、モンゴルなど）とのパートナーシップも含まれています。したがってTC 256により作成された規格が任意的なもの（CEN規格すべてがそうですが）であっても、指令と同様、TSIを含む鉄道についての法的構造の存在により、EU内での立場は以下ようになります。

欧州連合（EU）は、上記変化を実現するため法制定を導入し、相互運用

☞ マニフェスト

欧州委員会から各欧州標準化団体に出される指令。

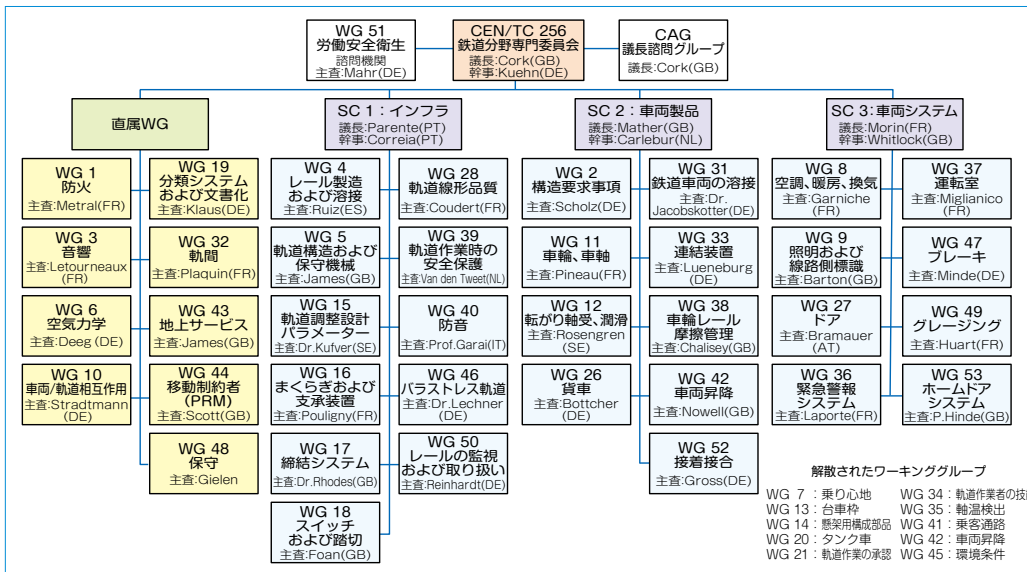


図1 CEN/TC 256 組織図

者と連携して活動しています。ステークホルダーの多くは、CENとパートナーシップ協定を締結しています。年に二回開催されるCEN/TC 256総会に定期的に参加しているステークホルダーもあります。CEN/TC 256は、規格の分野で姉妹的な鉄道の電気分野に関連する欧州電気標準化委員会CENELECのTC 9Xと提

- ・ ENがTSIで直接参照される場合— ENは法的拘束力を有するものとなる
- ・ ENが指令と整合している場合—EN に対するコンプライアンスにより、指令に対する適合性が推定される
- ・ ENが整合されていない場合—「通常の」任意規格としてのENである

TC 256による規格は、さらに以下のようになります。

- ・ 商業契約により義務付けられる
- ・ 国内法制に適用される (たとえば CENパートナー国にて)

CENの全ての国家メンバーは、CEN技術委員会の代表およびワーキンググループ(WG)の専門家を指名する権限を有し、全ての関連当事者間のバランスを維持します。承認された欧州または国際組織のオブザーバーとしての参加もまた、特定の条件で可能です。CEN/TCの活動への参加は、参加を求める国の標準化団体に連絡することでなされます。

鉄道に適用可能な要求事項の範囲が広いことから、特定のトピックについての規格開発に焦点をあてるため、CEN/TC 256は、分科委員会(SC)とWGから編成されます。以下に三つのSCとテーマを示します。

SC 1 インフラストラクチャー

インフラストラクチャーの設計、設備および保守(橋とトンネルは除く)に対する一般要求事項についての標準化を担当します。この規格の適用範囲には、鉄道インフラストラクチャーに関連する材料、構成部品、アSEMBリー、構造物および機械も含まれます。

SC 2 車両製品

鉄道車両製品および関連する車両搭載機器の設計、製造、運転および保守を対象とした、欧州規格の開発を担当します。

SC 3 車両システム

鉄道車両システムおよび関連する車両搭載システム機器の設計、製造、運転および保守を対象とした、欧州規格の開発を担当します。

さらに、防火、空気力学、車両/軌道相互作用、分類システムおよび文書化、音響、軌間、地上サービス、移動制約者(PRM)、車両保守、労働安全衛生などの横断的な課題については、TC直下にWGを設置しています。

図1はCEN/TC 256の現在の組織図を示します。

CEN/TC 256は、200余りの規格を発行し、現在100以上の項目に関連する規格の開発やメンテナンスに取り組んでいます。CEN/TC 256は、ステークホルダーを含む、ほかの多くの関係

携関係にあります。さらに2012年には、国際標準化機構ISOは、TC 269鉄道分野専門委員会を設立しました。CEN/TC 256はISO/TC 269の活動に主要なメンバーを参画させ、ENからISOへ規格を移行する「移行戦略」の枠組みについて、調整することを主眼とした連携活動を行っています。さらに日本工業標準調査会(JISC)とは、将来の鉄道規格のニーズに関する欧州と日本の共通の理解と、鉄道規格分野での知識の共有とを目的とした定期的な会合を開いています。

CEN/TC 256の最近の活動テーマを以下に示します。

- ・ 列車での火災リスクに関する一連の規格
- ・ 列車に影響を及ぼす横風に関する共通評価基準
- ・ 軌道線形品質についての一連の規格
- ・ 鉄道車両の耐衝突性に関連するさらなる規格
- ・ 鉄道車両上の接着接合に関する規格の開発
- ・ 運転室に関する規格の作成
- ・ ホームドアに関する規格の発行

つまり、CEN/TC 256の主要な目標は、発行された規格類の重要な部分を、将来の鉄道国際規格の基礎として、ISO/TC 269に提供することです。[RRR]